

第2部の発表・成果物

「新しい校舎の提案について」というテーマで、新しい校舎のプレゼンテーションを行ったあと、今の校舎と新しい校舎を比較しながら新しい校舎の図面に、場所ごとに意見を書き込んでもらいました。その後、第1部と同じように全体セッションで班ごとに集めた意見をまとめ、発表してもらいました。場所ごとに集めたポストイットの数と代表的な意見を下の図に示しています。



おわりに

ニュースレター第1号はいかがでしたか？第1回ワークショップでは、本当に多くの意見が集まり、みなさんの一高への想いが強く伝わってきました。本紙を見て新しい校舎のデザインに関わりたく感じた方は、ぜひワークショップに参加して下さい。次回のニュースレターでは6月10日(水)の第2回ワークショップの内容をお伝えします。お楽しみに！

高松第一高校デザインプロジェクト



ICHI-KO Design Project News Letter vol.01

デザインプロジェクト、始動。 5/13 第1回デザインワークショップ 開催！

新しい一高をデザインする。

県内唯一の市立高校である高松第一高等学校は、1968年に完成した本館など校舎の老朽化が進み、改築が喫緊の課題となっていました。そこで、高松市は、改築を実施するため、2015年3月に基本設計を行う設計者として、(株)日本設計を選定しました。また、高松市の要請により京都大学大学院工学研究科建築学専攻の門内輝行教授が建築アドバイザーとして参加することになりました。

2015年度は基本設計を行います、引き続き、16年度に実施設計と埋蔵文化財調査を行い、17年度に現校舎解体撤去と仮設校舎を設置し、18-21年度に建設工事を進めていく予定となっています。

一般に校舎の改築は、学校の歴史を変える大きな出来事です。今回の一高改築プロジェクトも本館建設から50年を経て行われるもので、現在在籍されている生徒の皆さんや先生方は、これまでの一高の歴史を踏まえ、未来の一高を創り出す千載一遇の機会に遭遇されているわけです。

そこで、特色ある一高を創造するために、新しい一高をみんなで考える「高松第一高校デザインプロジェクト」を始動することになりました。これは、一高の在校生・教職員、日本設計、高松市関係者、京都大学門内研究室などが一体となって、新しい一高をデザインしていくプロジェクトで

す。優れた建築をデザインするためには、多くの人の思いや経験を組み合わせることが不可欠です。皆さんには、積極的にプロジェクトに参加していただきたいと思います。

建築アドバイザーの門内教授の研究室では、物理的な校舎をデザインするだけではなく、一高を「特色ある素晴らしい学校」とすることを目指して、設計者、在校生・教職員を始めとする多くの関係者の対話を促し、アクティブラーニング(*)を含む新しい学びを可能にする魅力あふれる教育空間を実現していきたいと考えています。

そのために、未来の一高の校舎をデザインするワークショップを何回か実施します。皆さんが夢を描くことが、未来の一高を創造する重要な手がかりになるのです。

今回、5月13日に実施した第1回デザインワークショップの内容をとりまとめたニュースレターを発行します。ワークショップに参加していない皆さんにもその内容をお伝えすることにより、新しい校舎のデザインに関心を持っていただくきっかけになればと思います。

(*) アクティブ・ラーニング…教員が講義形式で一方的に教えるのではなく、学生や子どもたちが自分から進んで、さらにお互いが協力しながら学ぶ指導・学習方法の総称。体験学習、問題解決学習、調査学習、討論やグループワークなどが含まれる。



一高生・先生たちがデザインする、未来の校舎の姿とは。

テーマ 『高松第一高校の現在と未来を考える。』

場 所： 高松第一高校 大会議室

日 時： 16時30分～18時30分

参加者： 高松第一高校 在校生36人 教職員11人

開催内容

高松第一高校の改築にあたって、「高松第一高校の現在と未来を考える」をテーマに、高松第一高校の在校生・教職員の有志の方によるワークショップを開催しました。

ワークショップは主に第1部と第2部に分かれ、第1部「現状と将来のビジョンについて」と題して、では今使われている校舎に対する意見を、今の校舎の図面・写真などを示しながら、皆さんに出してもらいました。

第2部では、「新しい校舎の提案について」というテーマで、新しい校舎の姿を見てもらったあと、いまの校舎と比べてどこが良くなったか、まだどこが良くないのではないか、という話を話し合ってもらいました。

今回のワークショップを通して、第1部309枚、第2部223枚、計532枚という、ものすごい量のポストイットが集まりました！

新しい校舎のコンセプト

大きく分けて次の4つのコンセプトがあります。

1. 「知」「徳」「体」を実現する教育・文化の発信拠点
2. アクティブ・ラーニング等、生徒自らが表現・発信する授業を実現する空間
3. 正門から伸びる“一高ストリート”と紫雲山の軸線に沿った“桜紫モール”
4. 桜紫モールに学年を超えた交流・対話を生み、多目的な学習空間を展開



新しい校舎の模型

ワークショップの流れ

16:30 イントロダクション

今回のワークショップの趣旨説明

第1部 現状と将来のビジョンについて

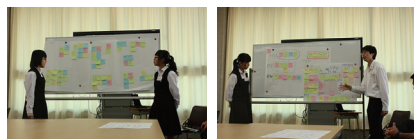
16:40 テーブルセッション①

グループに分かれ、現状の校舎についての思いや意見を集める。



17:05 全体セッション①

テーブルセッションで集めた意見をグループごとに発表する。



第2部 新しい校舎の提案について

17:20 新しい校舎についての説明

日本設計（設計者）による新しい校舎についてのプレゼンテーション。

17:35 テーブルセッション②

グループに分かれ、未来の校舎についての思いや意見を集める。



18:00 全体セッション②

各グループごとにテーブルセッションで集めた意見を発表する。



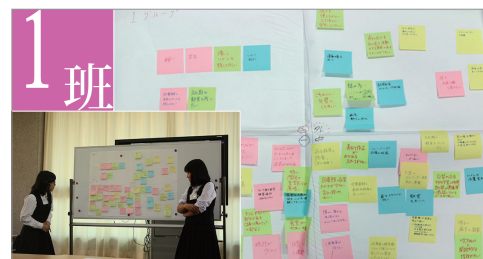
18:15 まとめ

18:30 閉会

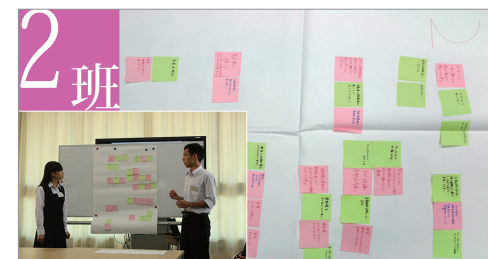
第1部の発表・成果物

「現状と将来ビジョンについて」というテーマで、現在使用している一高の校舎に対して、良い所・悪い所・残して欲しいもの・思い出に残っている場所・あったらいいなと思うものなどを班ごとに話し合いながら、自由にポストイットに希望・意見・提案・思いなどを書き込んでもらい、それらを眺めながら議論を深めました。

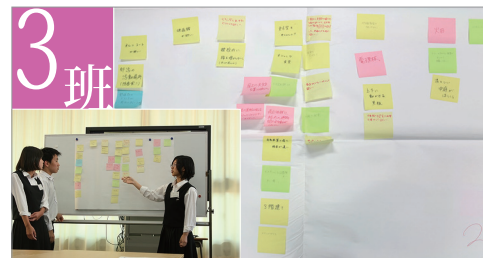
全体セッションでは班ごとにまとめた意見を発表してもらいましたが、色々な意見があつてとても興味深い内容でした。



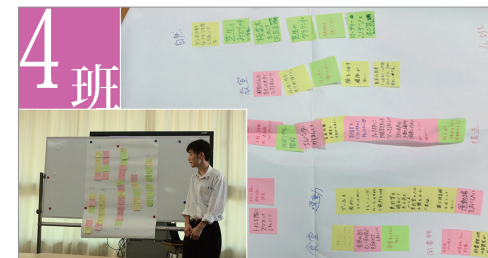
プラス面・マイナス面・外・中の4つに意見を分類。
・校舎、ソテツを一高の象徴として残したい。
・校舎が暗くてせまい、棟が分かれていて使いづらい。
・教室のロッカーが足りない、使いづらい。
・自習スペースを増やして欲しい（図書館以外にも）



全体として、今よりも広い校舎を望む意見が多い。
・体育館、更衣室を大きくして欲しい。
・教室を大きくして、人数が多くても入るように。
・食堂を明るく、通路を広くして入りやすくしてほしい。
・教室移動をできる限り短くして、エレベーターを設置。



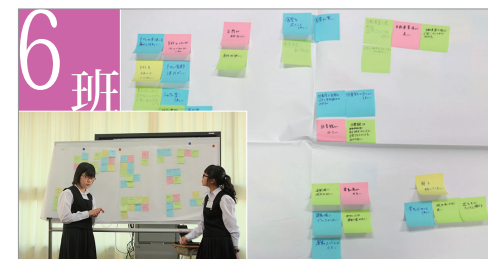
部活動・校舎・教室・外についてのグループに分かれた。
・全部の部活にそれぞれの部室が欲しい。
・エレベーター（バリアフリー、楽器運搬用）が欲しい。
・電子黒板や上下にスライドして分かれる黒板がいい。
・清々しい中庭が欲しい。



食堂・図書館・トイレ・運動・校舎・教室・自然に分類。
・音楽棟、家庭科棟、本館をつなげる。
・トイレを各階2つにして、校舎中央部に移動させる。
・食堂の机とイスの高さを調節して欲しい。
・5階ホールを1階にしたい。



各施設・場所ごとの意見を分類した。
・トイレで放送が聞こえないので、スピーカーが欲しい。
・一高会館のような同窓会の施設を残して欲しい。
・それぞれの教科の特性に合わせた教室の形。
・美専コース、音楽科などの一高特有の科の教室を残す。



食堂・図書館・体育館の意見が多かった。
・図書館の本を読むスペースと自習スペースを分ける。
・防音機能を充実させて欲しい。
・自転車置場が校舎から遠い。
・多目的に使える教室が少ない。